

ワカメ養殖業安定化試験

(増養殖技術開発事業)

道根 淳・池田博之*

1. 研究目的

近年、養殖ワカメの生産量は著しい減少傾向にある。このため、ワカメ養殖の実態を調査し、生産量の減少要因を明らかにするとともに、有効な養殖技術の開発を図る。得られた結果をもとに、ワカメ養殖業の生産性の向上、経営改善を図る。

2. 研究方法

(1) 漁業者へのフリー配偶体を用いた種苗生産の技術指導と普及

島根半島でワカメ養殖を営んでいる漁業者を対象に学習会を4回実施した。昨年度に引き続き、漁業者に各作業の技術習得を行ってもらうため、一連の作業を漁業者自らが行った。採苗に用いた親株は、各地先で採集したものの中から希望する形状等を有するワカメである。学習会の内容は、第1回が藻体の測定、遊走子の採取および配偶体の保存、第2回が配偶体の拡大培養、第3回が配偶体の拡大培養、成熟促進、第4回が配偶体の細断、種糸付けおよび芽胞体の培養(培養水槽の水替え作業)であった。

(2) 養殖試験

学習会で作製した種糸を約1ヶ月間水槽で培養し、幼体が肉眼で確認できるようになった種糸を各地先のワカメ養殖施設に取り付け、その後の成長を追った。今年度は、通常の沖出しに加え、1ヶ月程度早く沖出しを行った早期種苗、また1ヵ月半程度遅く沖出しを行った晚期種苗の成長の比較を行った。さらに、従来の方法により生産されたワカメとの比較を行うために、地種より生産されたワカメの測定も行った。

3. 研究結果

(1) フリー配偶体を用いた種苗生産の技術指導と普及

平成14年度からフリー配偶体を用いた養殖ワカメの生産に取り組んでいるが、毎年、沖出し後の芽落ちや生長不良が確認されてきた。今年度のワカメは、各地区とも形状、色、葉の厚さなど板ワカメ加工向きのワカメを生産することが出来た。技術習得については、二年目ということもあり、作業もスムーズに行われた。

(2) 養殖試験

今年度生産したフリー配偶体種苗によるワカメは、過去に生産したものに比べ生長も良く、同葉長でも重い傾向にあった。また地種種苗との比較をしたところ、同葉長の場合、フリー配偶体種苗のほうが重い傾向にあった。沖出し時期の違いによる生長を見ると、早期種苗の場合、通常より1ヶ月程度早く沖出しを行ったにも関わらず、生長は通常沖出しのものと同程度であった。この原因として、沖出し後の芽落ちが考えられ、2番芽が通常沖出しのものと同じような生長になったと考えられた。また晚期種苗の場合、沖出し後の生長は順調であったが、通常沖出しのものと同程度の葉長に達するのに1ヶ月程度の遅れが見られた。

* 松江水産事務所